

平成24年度若手研究者国際短期派遣事業滞在記

有機元素化学研究領域

笹森貴裕

化学研究所若手研究者国際短期派遣事業にご採択いただき、2012年10月10日～2013年1月3日の日程で、ドイツのボン大学に研究滞在させていただきました。このような貴重な機会をいただきました関係の皆様がこの場を借りまして感謝申し上げます。快く送り出してくださいました研究室スタッフの皆様や学生さん達にも併せて深謝致します。

私どもは、高周期典型元素の性質を解明するべく、新規な結合様式をもつ化合物の創製研究を行っております。世界各地で精力的に研究がなされている本研究分野ですが、最近特にドイツにめざましい成果を挙げている研究者が多くいます。今回、本短期派遣で、リン化合物の研究における第一人者といえるボン大学のStreubel教授のもとで研究を行うことができました。

最も印象的だったのは、教授はじめ研究室メンバーの研究に対するとっても真摯な姿勢でした。毎週開かれる研究打合会では、研究の目的をことあるごとに明確にし、細かな実験結果も見逃さず、真剣に議論し合いました。幸せなことに、研究装置などは日本で使っている装置の方がはるかに便利で高性能でした。しかし、装置が古いから、道具が古いから、などに不満をいう人などいるはずもなく、必死に装置をメンテナンスし、高性能装置がない分、知識と技術鍛錬で細かな作業を次々となしていました。道具を大切に、研究者の基本を思い出しました。なるほど、噂に聞くとおり、ワーキングタイムは10時～18時くらいで、割とのんびりした生活な気がしていましたが、きちんとメリハリがついて、充実した研究生活だと実感しました。また、何より質の高い技術職員の多さに驚きました。ほとんどの分析・測定は技術職員へ依頼する必要があり、時には煩わしさを覚えることもありましたが、おかげで三ヶ月弱の短い実験期間であっても数多くの実験をこなすことが出来ました。分析だけでなく、ガラス工作室、金属工作室、電気工作室があり、それぞれに職人さんが2～3名常駐しています。我々有機化学研究では最も大切なガラス器具ですが、相談に行くと、「俺に作れないモノはない！」という職人氣質に満ちあふれたお兄さんが、とても親身になって協力してくれました。沢山の特殊ガラス器具を作ってもらっただけでなく、ガラス工作室、金属工作室の協力のもと特殊な電気化学測定器具を作ってもらったこともできました。我々研究者の研究がうまくいくように、技術職員の方々は、高いプライドをもって協力体制をしっかり整えて下さっています。マイスターの国ドイツで、改めて研究サポートの技術者の大切さ、必要性を感じました。



異なる環境で実験研究を行うことは、自分を見つめ直し、日常のルーチンワークで気がつかなかった様々なことに目が向けられる貴重な機会かと思えます。今後も多くの若い研究者、大学院生がこのような機会を得られるよう、本事業の継続を願います。願わくば、本事業の三ヶ月間という期間制限がもう少し延長されれば、より深く他国の文化を知り、より深い共同研究が進むかと思えます。

